

1 目的

先進的な農家や農業関係機関または農業大学校等の視察、地域農家との交流活動などによる体験学習を通して、地域における農林業および関連産業への就農意欲の向上を図る。

2 実施状況

(1) 教科研修の実施

農林技術科1年生(29人)および2年生(23人)が、スマート農業の導入や農産物の海外輸出に取り組む先進農家および県立農業大学校の視察研修を実施し、経営的な利点や農産物の海外輸出について地域的な意義などを学習した。学校内での学習だけでは十分な理解が困難な部分もあったが、現場での体験的な学習と実際に取り組んでいる方からの説明によって理解が促され、農業への興味・関心を一層高めることができた。さらに、複数にまたがる視察研修は移動を含めた校外活動における感染症対策への理解を深めるとともに、畜産農家の視察においては家畜の防疫に対する意識を高める機会にもなった。



教科研修(畜産)

(2) 地域農家との交流の実施

農林技術科3年生(22人)が、7月の豪雨災害により被災した地域農家の支援活動を実施し、地域農業の現状と課題ならびに地域防災について学習した。活動先はブドウの施設栽培を主とする果樹農家で、ハウス周辺に流入した土砂の除去作業に取り組んだ。活動を通して、地域の特徴的な気候が農業生産には好条件であること、中山間地が多いため自然災害による影響を受けやすいことなどを学んだ。また、科目「作物」選択生(8人)は、地域の代表的な作物である米を、地域の米生産者にも呼びかけながら全国各地の食味コンテストに出品した。これらの取組により、地域への愛着や活性化への意識が高まり、全校生徒を対象にしたアンケートでは94.2%が「伊佐が好き」と回答した。



教科研修(園芸)

3 今後の課題・取組

農林技術科では、農業と林業に関する専門的学習を深めるため、2年生から園芸・大家畜・中小家畜・食品加工・林業の5つの専攻に分かれて学習を行っている。学年が上がり、専攻学習が深まるにつれて、各専攻の専門性に対する興味・関心が高まる傾向は認められるが、そのことが卒業後の進路選択に必ずしも反映されてはいない。今後は、引き続き関係機関との連携を図りながら、地域の農林業が抱える課題を見極め、それを主体的に解決する能力を育むとともに、体験的学習により得られた知識や技術を十分に生かした進路選択につなげたい。



地域農家との交流(土砂の除去)